

65歳までの範囲で敬老会の対象を広げている団体が66%も

9月決算議会が始まる。私の総括質疑報告(前半)

9月議会が3日からはじまりました。初日は、市長の提案理由の説明の後、総括質疑が行われました。私は日本共産党議員団を代表して登壇しました。

私は質疑に入る前に、この夏の干ばつ被害についてふれました。私はこのままでは再生産出来ないという訴えしている農家の声を紹介し、農家の要望をしっかりと聞きとり、対応してほしい、また補助事業については、遡及適用することがあることから、その場合は柔軟に対応してほしいと訴えました。

総括質疑で私が今回とりあげたのは、市職員のスプレッドシート、事務事業の総点検、公の施設再配置と市民の声の反映、第三セクターの経営健全化、敬老祝賀事業、診療所特別会計なども項目です。今号と次号



提出議案について総括質疑をする私。

で私の総括質疑の概要をお知らせします。

【橋爪】上越市役所で働く人たちは市民の暮らしを守り、向上させる最前線に立っている。それだけに精神的にも、肉体的にも健全な状態で働いていただきたいと思っている。昨年度のスプレッドシートの結果を見ると、昨年度は対象者が3011人、そのうち95.7%の人たちが受検し、受検者の8%（230人）に上る人たちが高ストレスの判定となっている。この結果をどう受け止め、どう分析しているか。

【村山市長】高ストレスと判定された職員は、受検者全体の8%となり、厚労省のマニュアルの設計数値を下回る結果となっている。また、「総合健康リスク」の数値においても、平成29年度の職場全体の数値は94点で、全国平均の100点を下回っている。ストレスの原因は、受検時の繁忙・閑散を含め業務によるもののほか、業務以外にも個人の資質や性格、家庭の問題など、様々なものがある。ストレスチェックを活用し、職員本人のストレスへの気づきを促し、早期に対処するとともに、職場においては、風通しの良い環境を整えていくことが肝要となる。

【橋爪】合併して13年がたち、敬老祝賀事業を見直すときに来ているの

ではないかという声の関係者の中から出てきている。参加実態を見ると75歳以上の対象者中、合併前15区で29.1%、13区では23.7%にとどまっている。こうしたなか、75歳以下の高齢者にも参加してもらい、参加者を激励し、交流を促進しているところも出てきていると聞いている。その実態はどうなっているのか。また、昨年度、敬老会開催の委託料は対象者1人あたり1200円から1270円へと引き上げられた。この委託料引き上げで敬老会開催を十分な内容で開催できたのかどうか、その点の実態と評価をききたい。

【村山市長】敬老会の実施については、合併前上越市の15区では各町内会のほか、小学校区単位等の住民組織に、13区では、まちづくり振興会等にそれぞれ委託している。平成29年度は、194の受託団体に、より敬老会が実施され、75歳以上の高齢者8611人から参加いただいた。

こうした状況の中、平成29年度においては、194団体のうち、市が委託する年齢要件のとおりに75歳以上を対象としている団体が111団体・57.2%、65歳までの範囲で対象を広げている団体が70団体・36.1%、このほか年齢を限



【シシウド】セリ科の多年草。漢字で「猪独活」と書きます。日当たりのいい山地に生えています。花は白、8月から10月頃咲きます。花言葉は「健康美」。写真は、大島区板山にて8月29日撮影しました。



吉川区の佐藤ナカさんの押し花作品

定せず、町内会の行事にあわせて実施する団体が13団体・6.7%となっている。委託料の具体的な算定に当たっては、多くの受託団体における飲食費や祝い品などの実費を参考としていることから、敬老会の賄い品の費用としては相応と考えている。

はしづめ法一の活動レポート

No.1874 2018.9.9
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら


八月下旬の豪雨。私の住んでいるところも避難勧告の対象になりました。私は、吉川が増水し、避難しなければならぬことを母に告げ、車で五分ほどの叔母の家に行きました。

母を預かってもらい、私はその後、数時間、吉川区や柿崎区などで被害状況などを見て回りました。この間、吉川の水位も下がって危険な状態はなくなったことから、夕方には避難勧告は解除となりました。

私は避難勧告解除が確実に変わった段階で、母を迎えに叔母の家に行きました。最初は、母を引き取ってすぐ帰るつもりだったのですが、叔母などに勧められてお茶をご馳走になってきました。

三〇分くらいやっかいになったでしょうが、その間に叔母や従弟の嫁さんと久しぶりにゆつくりと話をしました。叔母はコーヒを飲み始めた私に、「ぼちゃと昔話いっぱいできて良かったわね。ぼちゃ、竹平の『のうの』（母の実家の屋号）へ自転車で行ってきなつたがだもんねえ」と言いました。聞いた私は驚きました。

言うまでもなく、十数キロも離れた母の実家へ九四歳の母が自転車に乗っていくことは考えられません。ただ、私は二週間ほど前に、母が見たという夢の話を聞いていました。そのなかでは確かに三輪自転車に乗って竹平まで行ったということでした。母は、竹平の「イナバ」（屋号）の下まで乗って行ったけど、それから先は乗らなかつたようだ、と言っていました。まあ、夢のことですから、さもありませんと聞き流していたのですが、その夢が、叔母との話では実際にあった話に「発展」したようです。私は、叔母に「夢ん中の話だがね」と言いました。

叔母は続いて、「ぼちゃ、まだ、まんま

し、してなるがねえ」とも言いました。私は「この間は赤飯蒸かしていたけど、ほとんど家族のもんが作ってるこてね」と言ったのですが、私は「さあさ」と反省しました。母としては、毎食であるうが、数日に一回であるうが、まだ、「まんまし」の第一線から離れていないということを叔母に伝えたのかも知れないと思っただけです。叔母には、「そいがでね、助かっているわね」と言えばよかつたのです。

母を連れて帰ってから、再び外に出た私に家に戻ったのは、この日の夕方六時ごろだったと思います。玄関の戸を開けると、台所の方から何か炒め物をしているような音が聞こえてきました。「さて、誰だろう」と思いながら台所の入り口まで行って驚きました。母です。母が台所に立ち、叔母からもらつてきた玉ねぎ、ナス、ピーマンなどを使って料理をしていたのです。出来上がった油味噌料理を大きな皿に移すと、母は私に「飯台のここへ持つて行ってくれ」と言いました。

すつかり耳が遠くなつた母ですが、どうも叔母の家で、私と叔母が交わした言葉が聞こえたようです。「とちやが、なんだかんだ言つたつて、おれはまんまし、してるがど」。たぶん、母はそう思つたのでしよう。どうあれ、叔母の家に行き、野菜ももらつて、母の「まんまし」としての気持ちに火がついたことだけは確かです。

「まんまし」というのは、ご飯づくりのこと、あるいはご飯づくりをする人のことを言います。私は、久しぶりに「まんまし」という言葉を耳にしてうれしくなりました。そして、何よりも母が作った油味噌炒めがなつかしい、いい味だったので感激しました。母は間違いなく「まんまし」の現役でした。

親族要件の廃止などで助成世帯数・金額は大幅増 要援護世帯除雪費助成事業



要援護世帯除雪費助成事業は昨年度見直しが行われ、親族要件を廃止するとともに納屋や住宅敷地内の車庫などを助成対象にしました。その結果、助成対象世帯は

1089増えて2262世帯となりました。助成金額も大幅に増えました。

5日の厚生常任委員会では、この見直しについて、「見直しで申請しやすくなった」となどという評価の声が上がりました。

その一方で、助成限度額や多雪地域とその他地域の線引きの見直しについての質問が続きました。

横田高齢者支援課長は、「限度額については今後の利用状況を見ながら検討していきたい」とのべました。また、多雪地域とそれ以外の線引きについては、「最近は何

か新しい線引きを検討する状況にはない」と答えていました。



要援護世帯除雪費助成事業関連データ

区分	平成28年度	平成29年度	比較増減
申請世帯数 (世帯)	5, 108	6, 144	1, 036
承認世帯数 (世帯)	4, 866	5, 938	1, 072
助成世帯数 (世帯)	1, 173	2, 262	1, 089
助成金額 (千円)	29, 001	70, 185	41, 184

上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	8月29日(水)	9月5日(水)
上越南消防署	0.047	0.050
上越北消防署	0.057	0.057
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.057	0.040
頸南消防署	0.067	0.063
東頸消防署	0.050	0.047
高士分遣所	0.050	0.053
名立分遣所	0.053	0.047